

「協調」と「主張」

安藤姓の私は、幼いころから一番か二番に指名されることが多く、いつも「いやだなあ」と思っていました。「アダチ」君や「アリガ」君と違うクラスになると、あらゆることでトップバッターになり、見習う前例がないのでドキドキして過ごしていました。その反動でしょうか。学校で予防接種（注射）を打つときには、わざと痛かったふりをして、私の後に接種する仲間を不安がらせて楽しんでいました。

しかし、今は「一番がよい」と思っています。なぜなら、見習う前例のないほうが、自分らしさが発揮しやすいからです。瞬間的に考えて答えなければならぬ時は、自分に適度なプレッシャーがかかります。それが自分らしさを引き出してくれるのかもしれない。

「〇〇高校に見学に行って印象に残ったことや感想を、簡潔に教えてください。」

高校見学会参加の報告に来てくれた三年生に、私はこう尋ねることになっています。多くの生徒が一齐に報告に来てくれた時は、一人ずつ順番に語らせます。

すると、不思議なことが起こります。最初に語った生徒と同じ語り方、同じ内容が連続することです。多くの生徒が判で押したように「〇〇高校の見学会に行ってきた……」から始まります。内容も「高校生は集中していて」が繰り返されます。

間違いではありませんが、正直言っておもしろさに欠けますね。違う言い方が、違う内容で報告してほしいなあと思っています。ある生徒が高校生の集中力を具体的に語りました。

「授業参観に中学生が（教室に）入っていったときも、だれも振り返りませんでした。」

私はすぐに興味をもちました。「すごい」の中身が、私の中で姿としてイメージできました。たったこれだけのことですが、聞き手は刺激されます。さらに質問したい、もっと聞きたいという気もちが生まれます。

私はその生徒に「私が教室に入っていくとき、（授業を受けている）中学生（の反応）はどうか」と尋ねました。すると彼はにやっと笑って表情で答えました。相手が突っ込んだり質問したりするのは、その回答に興味がある時です。自分をアピールできたと捉えて、自信をもってよいと思いますよ。

中学校では、仲間と足並みをそろえて頑張ることを大切にします。しかし、それは全員が同じことを考え、同じことに同じように取り組むことではありません。自分の色を出すべきところは出しましょう。人と違うことを語ることは、自分をアピールすることになりますからね。「協調」と「主張」を両立できる北中であってほしいと願っています。（十一月十三日 記）